

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表（平成30年度版）

法人名	特定非営利活動法人 自遊の広場	代表者	理事長 宮内眞	法人・ 事業所 の特徴	○古民家を使い、高齢者がなじみやすい場づくりを心掛けている ○地域住民やボランティア等、誰もが入りやすい雰囲気づくりをしている ○日常生活圏域・とりわけ事業所近辺の濃い人間関係が、良くも悪くも日常生活に反映する。個人情報管理や力関係に気を配る必要もある。
事業所名	すずかけの家	管理者	宮内 眞		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	民生委員	合計
	人	2人	人	人	1人	1人	人	3人	1人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	○より多数の非常勤職員が参加かつ高能率の方法を追求する ○利用者の本音を探る努力をする。	真剣に取り組んでいる	○3回のミーティングを行ったが、全職員が集まるのは難しい ○利用者とのコミュニケーションはとっているが、本音は難しい	継続
B. 事業所のしつらえ・環境	○（「家らしくていい」という評価もあったが）事業に差し支えないよう、片付け・収納がうまくできるようにする	良く考えて取り組んでいるのではないかと	薪ストーブ、「すずかけの家」の看板、畑、庭に置いたイスなど、過ごしやすい環境づくりを工夫している	なし
C. 事業所と地域のかかわり			地元主催のイベントに積極的に参加したりして、良好な関係をつくる努力をしている。	なし
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	○「藤野」という日常生活圏域の特徴⇒人間関係の濃さを武器に、いっそう地域に出向くようにする。	それなりに取り組んできた。成果もあるが、難しい部分もある 例えば利用者以外の方は、遠くの人には関わりきれっていない。	○見守りネットワークができたが、まだ部分的である ○地元篠原以外の地域で、防災時の体制が心配である、	継続
E. 運営推進会議を活かした取組み	○運営推進会議がより事業者と情報や認識が共有する方法を追求する	かなりできている	○事業所・地域共細かく情報を提供し、充実した中身となっている ○地域が小さいので、話が通りやすい	継続
F. 事業所の防災・災害対策	地域住民と共に運営推進会議のメンバーが、訓練に参加できる方法を考える	取組んではいるが、課題が多い	○外部からすると、職員がよくわからないので、連絡が繋がらない ○男性職員が殆どいない⇒心配 ○運営推進委員が参加しやすい訓練方法を考える	継続